

第26 パッケージ型消火設備

パッケージ型消火設備の設置及び維持に関する基準は、「パッケージ型消火設備の設置及び維持に関する技術上の基準を定める件」（平成16年消防庁告示第12号。以下「12号告示」という。）に定めるほか、次によること。

1 設置することができる防火対象物の要件の取扱いについて

12号告示に規定される「火災のとき煙が著しく充満するおそれのある場所」以外の場所については、次によるものであること。◆

- (1) 使用形態が、自動車の修理場、駐車場、発電室、変電室、ボイラー室、乾燥室、通信機械室及び指定可燃物貯蔵・取扱所その他これらに類するものではないこと。
- (2) 火災の際、煙が有効に排除でき安全に初期消火を行うことができるとともに、避難時には、主要な避難口を容易に見通すことができ、又は当該開口部から避難できる場所であること。

2 設置方法

- (1) 地震等により倒れないように堅固に設置すること。
- (2) 周囲には、障害物等がなく円滑な操作等が行えること。
- (3) 間仕切等により放射できない部分が生じないよう、ホースを延長する経路、ホースの長さ及び放射距離を考慮して当該階の各部分に有効に放射できるよう設けること。

3 表示等

- (1) 格納箱には、操作手順を示す絵表示等が貼付されていること。◆
- (2) 格納箱に設ける赤色の灯火にあっては、取付け面と15度以上の角度となる方向に沿って10m離れたところから容易に識別できること。
- (3) 赤色の灯火の電源は、配電盤又は分電盤からの専用回路とすること。